

## 2013年度 事業計画書

(2013年4月1日～2014年3月31日)

### I. 事業計画

#### 2013年度 活動テーマ

### 生活者と企業が共に成長する豊かな社会に向かって — ヒーブ視点マーケティングの実践 —

2012年度は「日本ヒーブ協議会の原点再考 — 会員・企業の更なるネットワーク構築を目指して—」を活動テーマとして、本会の意義や役割を再認識し、生活者と企業のパイプ役として求められている活動を今一度再考し、会員の一人ひとりの能力向上に取り組むとともに、会員間の交流の場を持ち、協議会内部の基盤強化を行ってきた。これらの活動の中で、会員定着のための帰属意識向上の必要性や協議会参加メリットの明確化、そして協議会運営の効率化に向けた支部間の連携強化など、新たな課題が浮き彫りにされた。

今年創立35周年を迎える2013年度は、それらの課題解決に向け、「生活者と企業が共に成長する豊かな社会に向かって — ヒーブ視点マーケティングの実践 —」を活動テーマに掲げ、ヒーブ会員全員が一丸となって進んでいきたい。マーケティングとは、お客様に「満足」「価値」を提供するための全ての活動をさす。まさに「生活者と企業の双方を理解し、新しい価値を創造・提供することで、生活者の利益および企業の健全な発展に寄与する」というヒーブの使命を、会員一人ひとりがそれぞれの立場で果たせるように、この時代における“ヒーブ視点の意味”を具体化して、自分自身の仕事に展開していくことを着実に進めていきたい。そして、それを形にして提案・発信することで、生活者、企業、社会への新しい価値の提供を目指していきたい。

#### 【活動方針】

- ① 生活者と企業のパイプ役としての役割、そのキーとなる“ヒーブ視点”を掘り下げ具体化し、会員ならびに企業とその意義を共有化するとともに、会員の能力向上を図る。
- ② 周年記念の節目としてヒーブの意義を具現化する活動を行い、広く社会への情報発信を行う。
- ③ 会員・賛助会員の確保及び安定的な組織運営体制づくりに取り組む。
- ④ 消費者関連行政機関や大学等における情報提供の場に参画し、企業及び協議会の取り組みを紹介する機会を創る。

2013年4月24日

2013年度代表理事 杉本 美穂

## 企画グループ

### 活動目標

- ・生活者と企業のパイプ役として、会員がより良い仕事をするための能力向上を図る。
- ・会員が、業種、職種、年齢を超えたヒーブのネットワークを活用できるようサポートする。
- ・会員一人ひとりがヒーブとしての活動目標を持ち、積極的に使命を果たせるようサポートする。
- ・ヒーブ協議会（以下協議会とする）の認知度を高め、広く活動内容を公開し、様々な分野との交流を深める。
- ・会員拡大に取り組み、活力ある組織運営を図り、有意義な活動を継続的に行うことにより、ヒーブとしての責任を果たす。

### 1. 活動目的

- (1) 代表理事の諮問機関として、代表理事を補佐し協議会運営が円滑に行われるよう努める。
- (2) 各支部が活動テーマを踏まえながら、地域性を活かしながら運営できるよう支援するとともに、連携することにより相互の資質の向上を図る。
- (3) 協議会の代表として、他団体、行政、オピニオンリーダー等との交流を積極的に行い、情報交換に努めるとともに、協議会の存在・活動を社会にアピールする。
- (4) 協議会を中長期に展望し、今後の活動方向を検討し改革を推進する。
- (5) 優れたヒーブ会員の育成を図るため、自主的な研究活動を支援する。また、個々のヒーブの働きを社会にアピールする。
- (6) 協議会のシンクタンクとしてテーマを定めた基礎研究を進め、情報の蓄積を図り、その成果を継続的に社会に発信する。

### 2. 活動内容

- (1) 今年度のテーマに則り、協議会全体が効果的に活動できるよう推進する。
- (2) 時代に合った協議会運営ができるよう組織や運営についての改革を推進する。
- (3) 関西・九州支部の運営委員と適時会合をもち、支部活動の効率的な運営を図る。
- (4) その他、期中に発生する課題や提案に応えるための企画・支援を行う。
- (5) 生活者・企業・行政・消費者（関連）団体との「連携」と「協働」を目指し、活動推進を図る。
- (6) 内閣府男女共同参画推進会議と連携し、会員の働く女性としての資質向上を目指す。
- (7) ヒーブコレクション（ヒーブバック）の管理及び販売を支援する。

## 研究会推進グループ

### 1. 活動目的

- (1) 会員の能力向上  
 会員一人ひとりが「知識」「スキル」「感性」を磨き、その成果を会員・企業・社会にフィードバックできるよう研究会・見学会・分科会等を企画・運営する。
- (2) 協議会活動への参加促進  
 分科会・自主研究活動を推進し、会員が、ヒーブ協議会の活動に積極的に参加できる環境づくりを目指す。
- (3) 会員相互のコミュニケーションの促進・支援  
 企業間・会員間の交流を支援し、ネットワークの強化を図る。

### 2. 活動内容

- (1) 月例研究会・公開講座の運営
  - ・有識者・企業・行政等による講演会、企業見学会、キャリアアップセミナーなどを中心に月例研究会を企画・運営する。
  - ・月例研究会を公開講座として企画・運営する月を適宜設け、協議会の対外的な認知を高めるとともに会員の拡大に取り組む。(開催月は別途検討)
  - ・開催スケジュール(予定)

講演会(公開講座含む)	4月	5月	6月	7月	9月	11月	1月	2月	3月
キャリアアップセミナー	12月								
見学会	10月								
分科会・自主研究会	適宜開催								

- (2) 分科会・自主研究会活動の推進・運営
  - ・2013年度は、ヒーブ視点の情報発信ができる分科会活動に重点をおき、分科会活動をとおして会員同志の交流を深め、各グループの活動を支援していく。
  - ・研究成果を会員に報告するとともに、企業や社会に対しての情報提供を支援する。
  - ・開催スケジュール(予定)

分科会	5月	6月	7月	9月	10月	11月	1月	2月	3月
自主研究会	随時								

- (3) 総会・記念講演会の運営
  - ・年1回開催する総会及び記念講演会を企画・運営する。

## 組織の活性化を図るグループ

### 1. 活動目的

協議会の活性化を目的として、協議会の基盤整備を行い、会員自らが積極的に活動できるように支援する。

### 2. 活動内容

#### (1) 会員の管理と拡大

- ・会員数増加に向けた具体的な戦略活動を構築し、会員参加で取り組める積極的な活動を展開する。
- ・会員名簿活用事例の共有化を図り、会員メリットの再認識と会員満足度を高める。

#### (2) 諸規則の見直し

会員数拡大に向けた内規類の見直しを実施する。

#### (3) グループ活動の推進

- ・会員が協議会運営に参加し、グループ活動内容の向上および会員活動の活性化につながるよう役割を明確化する。
- ・選挙管理委員会、プロジェクトを擁立する場合は、会員から募集を行い参画意識を高める。

#### (4) 交流会の開催

- ・より多くの会員と交流が図れるよう、月例研究会等にあわせて交流会を積極的に開催する。

#### (5) 会員へのガイダンス

- ・協議会に関する理解を深めるため、協議会活動について5月の月例研究会またはその前後で説明を実施する。

#### (6) 「理事会だより」のHP掲載

- ・理事会の議題の中からトピックスをまとめ、会員に報告する。

#### (7) 理事・監事選挙

- ・選挙管理委員会を組織し、選挙活動が滞りなく進むよう補佐する。

## 広報グループ

### 1. 活動目的

- (1) 協議会の存在及びその活動を広く外部に報せ、理解促進及び認知度向上を図る。
- (2) 生活者と企業のパイプ役を果たす場を支援し、生活者と直接交流を図る活動を促進する。

### 2. 活動内容

#### (1) 情報発信

- ・マスコミに向けて協議会の活動を積極的に発信し、協議会の認知及び理解を高めるとともにマスコミからの問い合わせに対応する。
- ・会員に対し、協議会の活動を効果的に知らせ、理解を高めることにより活動の促進を図る。

#### (2) パンフレットの作成

協議会の活動目的と活動内容及び参加企業を広く紹介するためのツール（小冊子）「What

is ヒーブ？」を年1回、機関誌「レポートヒーブ」を年2回作成する。

(3) ホームページの運営

- ・協議会と社会のインターフェイス機能として、外部へ協議会活動をタイムリーに発信するために情報収集を行い、充実した魅力あるページづくりを目指す。
- ・「メンバーズオンリー」ページにて月例研究会の案内など会員への情報提供を迅速に行い、会員間のコミュニケーションや情報収集に役立つページとして充実させる。

(4) 生活講習等

- ・講師の派遣等を通じて、生活に役立つ生活情報を提供し、協議会の社会的認知度を高める。

## 調査グループ

### 1. 活動目的

- (1) 協議会の活動に沿い、社会や会員企業に役立つ生活者情報を収集する。
- (2) 収集した情報を分析し、会員の業務に役立てる。
- (3) 調査結果を広く社会に発信し、協議会の認知度アップに繋げる。
- (4) 働く女性のリーディング集団として、「働く女性と暮らしの調査」を定期的実施し、その経年変化を追って社会に提言する。
- (5) 時代の経過とともに変化する「働く女性と暮らしの調査」そのものの中長期的ビジョンを探る。

### 2. 活動内容

- (1) 第9回調査報告書をもとに報告会の実施を検討する。また広報と連動し調査内容を広く社会に発信する。
- (2) 次回(第10回)調査の内容について、可変部分のテーマ・調査対象等について検討を行う。
- (3) 調査報告書のオープン化及び活用方法に向けた討議を行う。

## 関西支部

### 1. 活動目的

- (1) 月例研究活動を通じて、会員一人ひとりがヒーブに求められている資質である現状認識から問題発見し、解決に至るまでのプロセス管理、またそれを他者へ発信するプレゼンテーション力など様々な能力向上を目指し活動を行う。また、活動を通じ会員間のコミュニケーションを深めることで人間関係の構築やその関係性をベースとしたレベルアップを図る。
- (2) 会員一人ひとりが上記の内容を実践し、その成果を会員自らの企業へ持ち帰り情報や成果の共有を図り、ヒーブの存在価値を高める。
- (3) 合同月例研究会を通じて、支部を超えた会員相互のコミュニケーションを図るとともに地域で躍進する企業と生活者のよりよい関係性を学ぶ。

## 2. 活動内容

### (1) 月例研究会活動

- ・会員の資質向上のみならず、業務へのフィードバックができる内容にし、会員・会員企業にとって役立つ研究会活動を目指す。
- ・引き続きセミ公開の研究会を多く開催し、会員以外の方にも参加いただき会員企業へ貢献度を高める。
- ・月例研究会のリーダーを中心とし、各チームで、講師交渉・案内状作成・会場手配から当日の運営、報告書の作成までを担当する。

### (2) 広報活動

- ・ACAPとの合同月例、他団体・行政等との交流によりヒーブの認知度を高める。
- ・ヒーブ視点での情報発信を積極的に行い新規会員の獲得に努める。

### (3) 組織活動

- ・会員の協議会に対する理解を深め、積極的に会員活動が行えるよう、ガイダンスミーティング、ふれあいミーティング（ランチ・ディナー）を継続して行う。
- ・協議会の活動は会員一人ひとりの参加からなることを改めて認識し、全員参加型の活動に繋げる。
- ・会員間の業種・職種を超えた“ネットワークづくり”を促進する。
- ・ヒーブ視点での情報発信を積極的に行い新規会員の獲得に努める。

## 九州支部

### 1. 活動目的

- (1) 2012年の九州支部はテーマを「2012 “伝える力” が企業を、地域を、生活者を変える」として、誰に対して何をどのように訴えかけるのかを明確にし、一昨年度に学んだヒーブカフェの手法などを用いながら活動してきた。本年度の九州支部は「ヒーブ力が働く女性を伸ばす、育てる(仮)」というテーマのもと、多様になってきた「女性の働き方」を探求し、その中で会員自身のスキルアップや、生活者視点を持つ企業人としてヒーブ会員の力を広くアピールしていくことを目指す。

また、日本ヒーブ協議会会員から講師を招き、ヒーブ自体の活性化と交流を促し、より強い会員基盤づくりを行っていく。

- (2) 九州支部会員の減少に伴い、今期はマーケティング研究会として「女性が幸せに暮らすための住居づくり&暮らし方」をテーマに研究会を立ち上げる。また、同時に九州支部の「サポーター制度」を立ち上げ、男女問わず様々な業種のサポーターメンバーを募集し、九州支部会員が中心となって、調査研究を行い、ヒーブの認知度を上げるだけでなく、幅広い交流を図る。

### 2. 活動内容

#### (1) 月例研究会活動

- ・会員全員が運営に携わりつつ、役割を明確にする。

- ・年間活動テーマのもと、少人数の会員数でできるよう公開講座1回、月例研究会3回程度に絞り込む。講師をヒーブ会員から招き、交流を図る。

(2) 広報活動

- ・ヒーブのOB会員との連絡網を見直し、交流の機会を確立した上で、サポートや広報活動をお願いする。
- ・県や市の男女共同参画担当者やマスコミとの連携を深めネットワーク化を図るために、情報交換に注力する。
- ・マスコミへの連絡網を整理し、全員が連絡・確認できる体制を目指す。
- ・「九州支部通信(仮)」を創刊し、サポーター・マスコミなどに配布。認知度アップを目指す。

(3) 組織活動

- ・新入会員への「ガイダンスミーティング」の実施や、個人会員にも活動内容等の説明を確実にし、積極的な参加を促す。
- ・会員企業の協議会に対する理解を高めるために、公開講座においては、興味を抱ける内容とし上司、同僚の参加を呼び掛ける。

(4) マーケティング研究会の立ち上げ

女性が幸せに暮らすための住居づくりをテーマとして、九州の風土に合った住まい方を研究し、よりよい暮らしに向けた提案をしていく。

以 上

## II. 予算

### 1. 一般会計 ＜収入の部＞

(単位：円)

科 目	金 額	
前 期 繰 越 金		3,252,677
会 費		
正 会 員           90 名	5,400,000	
個 人 会 員       8 名	144,000	
小 計		5,544,000
入 会 金		
正 会 員           3 名	90,000	
個 人 会 員       5 名	25,000	
小 計		115,000
賛 助 会 費       33 口	1,650,000	1,650,000
雑 収 入		
預 貯 金 利 息	1,000	
特 別 例 会 費	1,050,000	
特 別 会 員 寄 付 金	0	
そ の 他	150,000	
小 計		1,201,000
収 入 合 計		8,510,000
総 合 計		11,762,677



<支出の部>

(単位：円)

科 目	金 額			
活 動 費				
企画活動		500,000		
研究会推進活動		2,640,000		
組織の活性化を図る活動		285,000		
広報活動		895,000		
調査活動		351,000		
小 計				4,671,000
※活動費の地域別内訳				
	東京	3,491,000	関西支部	830,000
			九州支部	350,000
運 営 費				
地代家賃		990,000		
人件費		2,000,000		
コンサルタント費		420,000		
通信費		280,000		
交通費		610,000		
会議費		10,000		
消耗品費		100,000		
保守料		130,000		
支払手数料		25,000		
水道光熱費		80,000		
運賃		70,000		
賃借料		477,000		
租税公課		82,000		
雑費		10,000		
交際費		10,000		
小 計				5,294,000
支 出 合 計				9,965,000
正味財産増減額				-1,455,000
前期繰越金				3,252,677
総 合 計				11,762,677

2. 特別会計

<支出の部>

(単位：円)

科 目	金 額
35周年記念プロジェクト	1,300,000